



# 内戦負傷者 義肢で助けたい

ルワンダから初の女性研修生 ウムリサ・ガクバ・ディアネさん



義肢製作を学ぶウムリサ・ガクバ・ディアネさん

横浜市戸塚区の平井義肢製作所で

来県しているのは、茅ヶ崎市に事務局があるNGO「ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」がルワンダの首都・キガリで運営する義肢製作所で働くウムリサ・ガクバ・ディアネさん(21)。昨年8月に来日して日本研修をした後、同10月から今年3月中旬までの予定で、横浜

## 父も義足

市戸塚区の平井義肢製作所で研修を続けている。

ルワンダは04年、フツ族とツチ族との民族対立抗争から内戦状態に陥り、80万人を超える死者が出たとされる。ディアネさんの父ジョゼフさんはもともとツチ族の影舞で左足を失い、義足を使っていた。そのジョゼフさんも内戦修をした後、同10月から今年

民族間の対立による内戦で多くの犠牲者や負傷者が出たアフリカ。ルワンダから、義肢の製作技術を学ぼうと、研修生が毎年国内を訪れている。今回は初めて女性が参加した。内戦で亡くなった父も義足を使っていたが、生前に交わした「義肢製作で障害者を助ける」という約束を大切に抱えながら、技術の習得に努めている。

(岩堀悠)

## 父との約束胸に取り組む

た。当時8歳だったディアネさんは、母や姉妹とともに残された。

## 女性の悩み

「義肢製作の仕事に就いて、多くの困った人を助ける」

ディアネさんは生前のジョゼフさんとこんな約束を交わしていた。祖国に平和は戻りつつあるが、キガリの町には今も地雷で手足を失い、義肢をつけた障害者が多い。ディアネさんは父との約束を果した。昨年からは念願の義肢製作の仕事スタートさせた。

## 母の応援

平井義肢製作所の義肢装具士で、ディアネさんを指導する平井真実さん(71)は「彼女を果した。昨年から念願の義肢製作の仕事スタートさせた。ディアネさんは「思っていたよりも仕事は難しい。でも、日本で道具や技術の知識がたくさん身につけられるのだから」と言う。ディアネさんは「国民の海外技術研修員制度では04年度から、ルワンダの研修生が毎年1人参加し、義肢の再建にいくらかでも貢献できれば」と話した。

2008年2月5日 朝日新聞 神奈川版 掲載

このPDFファイルは、朝日新聞の許可を頂き、掲載しています。

※無断転記は堅くお断りします。